

# CHAPTER 3

## 仮想アプライアンスの展開

仮想デバイスと仮想防御センターを使用して、仮想環境内にセキュリティソリューションを展開し、物理資産と仮想資産の両方の保護を向上させることができます。仮想デバイスと仮想防御センターにより、VMware プラットフォームでセキュリティソリューションを容易に実装できます。仮想デバイスはまた、リソースが制限されることがあるリモートサイトのデバイスの展開および管理を容易にします。次の例では、物理デバイスまたは仮想デバイスを管理するために物理または仮想の防御センターを使用できます。IPv4 または IPv6 のネットワークに展開できます。

---

**警告!** Sourcefire は、実稼動ネットワークトラフィックと信頼される管理ネットワークトラフィックを、異なるネットワークセグメントに保持することを強く推奨します。アプライアンスと管理トラフィックデータストリームのセキュリティを保証するための対策を実施する必要があります。

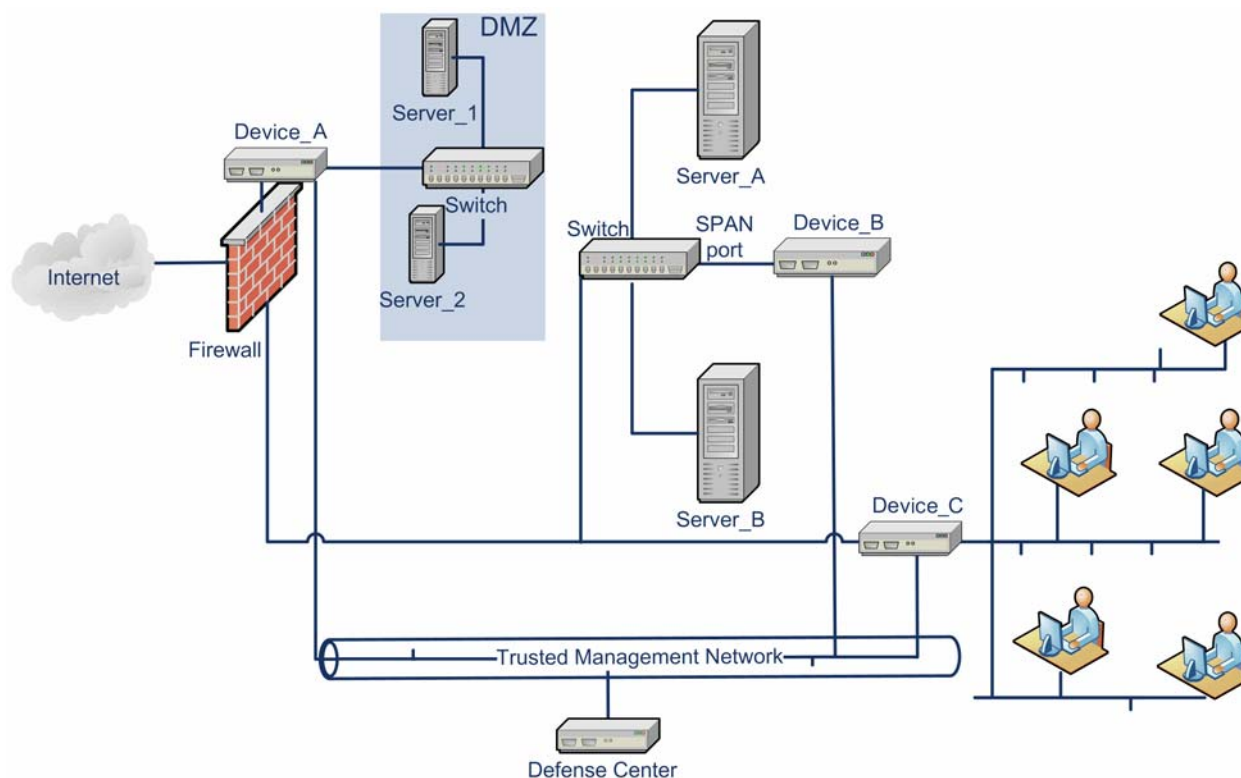
---

この章では、展開に関する事例を示します。

- 「一般的な Sourcefire 3D System の展開」(P.49)
- 「VMware 仮想アプライアンスの展開」(P.50)

## 一般的な Sourcefire 3D System の展開

物理アプライアンス環境で、一般的な Sourcefire 3D System の展開には、物理デバイスと物理防御センターを使用します。次の図は展開の例を表します。以下に示すように、Device\_A および Device\_C をインライン構成で、Device\_B をパッシブ構成で展開できます。



ほとんどのネットワーク スイッチでポート ミラーリングを設定して、1つのスイッチ ポート（または VLAN 全体）で発生するネットワーク パケットのコピーをネットワーク 監視接続に送信できます。主要なネットワーク機器プロバイダーでは SPAN（スイッチ ポート アナライザ）とも呼ばれるポート ミラーリングを使用することで、ネットワーク トラフィックを監視できます。Device\_B は、Server\_A と Server\_B の間のスイッチの SPAN ポートを経由して、Server\_A と Server\_B の間のトラフィックを監視することに注意してください。

## VMware 仮想アプライアンスの展開

一般的な展開例について、次の仮想アプライアンス展開シナリオを参照してください。

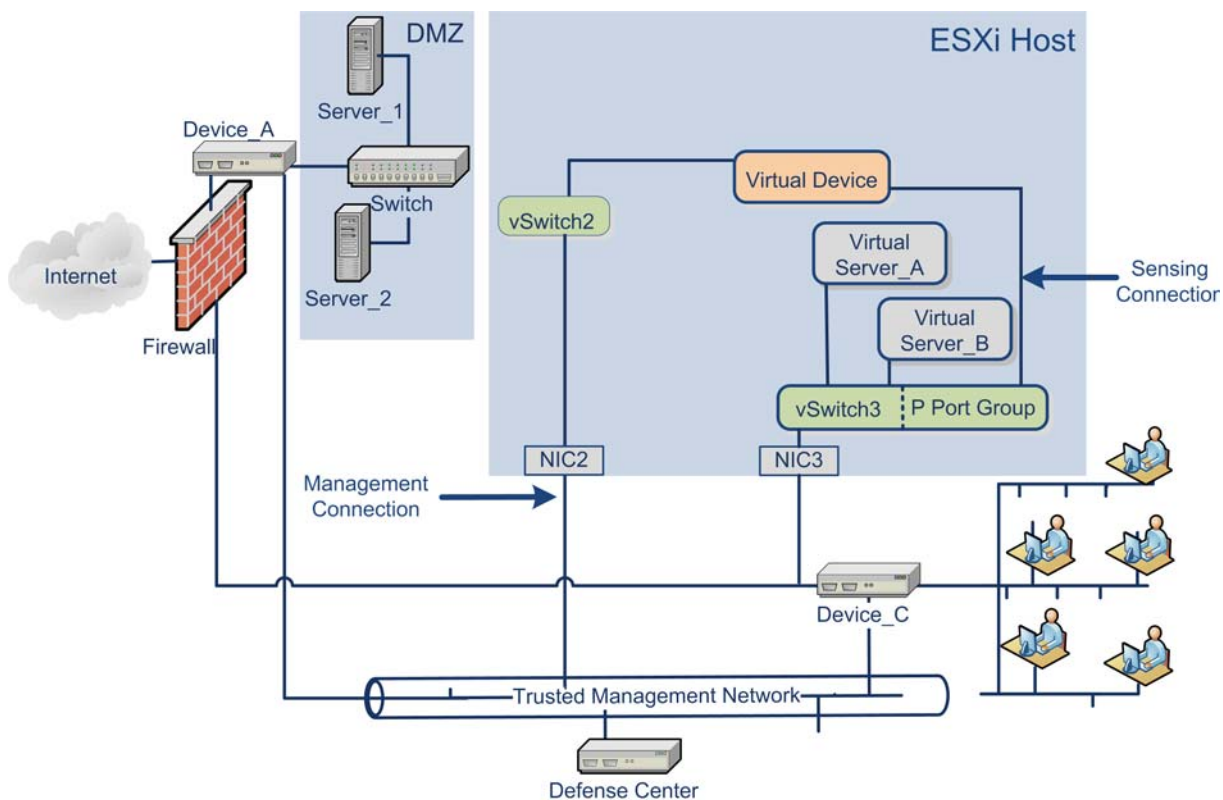
- 「仮想化と仮想デバイスの追加」 (P.50)
- 「インライン検出のための仮想デバイスの使用」 (P.52)
- 「仮想防御センターの追加」 (P.53)
- 「パイロット展開の使用」 (P.53)
- 「リモート オフィス展開の使用」 (P.54)

### 仮想化と仮想デバイスの追加

仮想インフラストラクチャを使用することにより、「一般的な [Sourcefire 3D System の展開](#)」 (P.49) で物理的な内部サーバを置き換えることができます。次の例では、ESXi ホストを使用して、Server\_A および Server\_B を仮想化できます。

仮想デバイスを使用して、Server\_A と Server\_B の間のトラフィックを監視できます。

下図のように、仮想デバイスセンシング インターフェイスは、無差別モードトラフィックを受け入れるスイッチまたはポート グループに接続する必要があります。



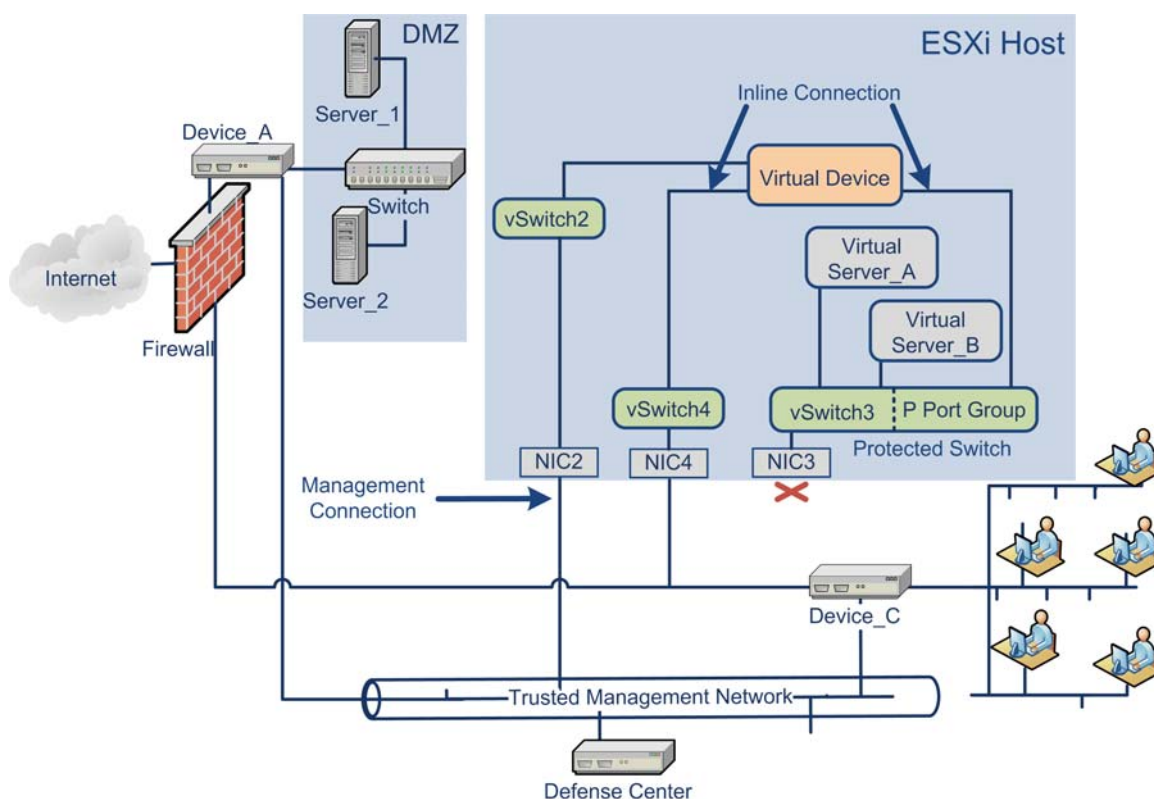
**重要!** すべてのトラフィックを検知するには、デバイスセンシングインターフェイスが接続する仮想スイッチまたはポートグループで無差別モードトラフィックを許可します。「[仮想デバイスのセンシングインターフェイスの設定](#)」(P.69)を参照してください。

この例で示しているセンシングインターフェイスは1つのみですが、仮想デバイスではデフォルトで2つのセンシングインターフェイスを使用できます。仮想デバイスの管理インターフェイスは、信頼できる管理ネットワークと防御センターに接続します。

## インライン検出のための仮想デバイスの使用

仮想デバイスのインライン インターフェイス セットを介してトラフィックを渡すことにより、仮想サーバの周囲にセキュアな境界を実現できます。このシナリオは「一般的な Sourcefire 3D System の展開」(P.49)と「仮想化と仮想デバイスの追加」(P.50)に示す例の上に構築します。

はじめに、保護された仮想スイッチを作成し、それを仮想サーバに接続します。次に、保護されたスイッチを、仮想デバイスを通じて外部ネットワークに接続します。詳細については、『Sourcefire 3D System User Guide』を参照してください。



**重要!** すべてのトラフィックを検知するには、デバイスセンシングインターフェイスが接続する仮想スイッチまたはポートグループで無差別モードトラフィックを許可します。「仮想デバイスのセンシングインターフェイスの設定」(P.69)を参照してください。

仮想デバイスは、侵入ポリシーに応じて、Server\_A および Server\_B への悪意のある任意のトラフィックを監視およびドロップします。

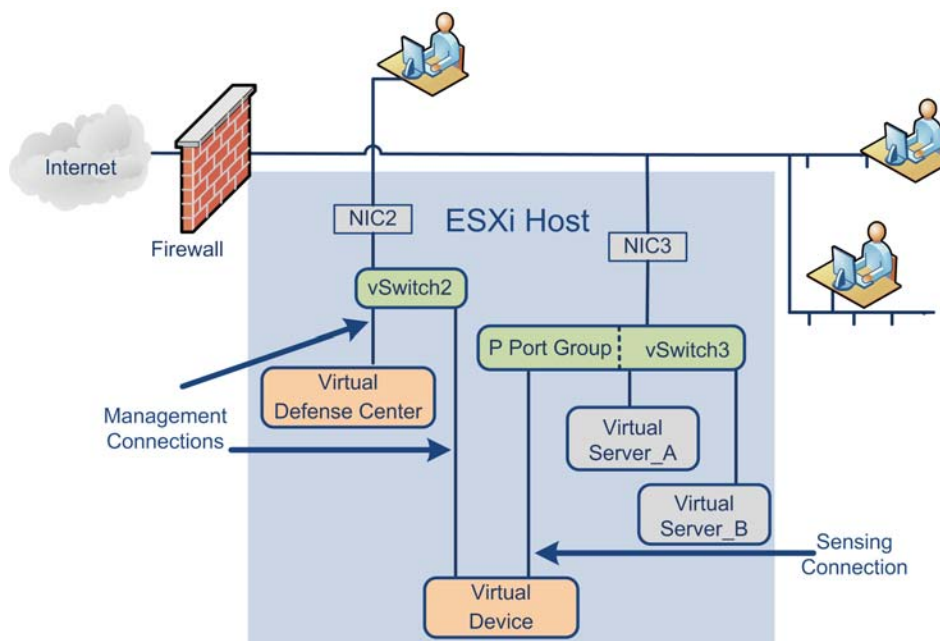
## 仮想防御センターの追加

次に示すように、ESXi ホストに仮想防御センターを展開し、仮想ネットワークおよび物理ネットワークに接続できます。このシナリオは「一般的な Sourcefire 3D System の展開」(P.49) と「インライン検出のための仮想デバイスの使用」(P.52) に示す例の上に構築します。

仮想防御センターから NIC2 を経由した信頼できる管理ネットワークへの接続により、仮想防御センターは物理デバイスと仮想デバイスの両方を管理できます。

## パイロット展開の使用

Sourcefire 仮想アプライアンスは必須のアプリケーションソフトウェアとともに事前に構成されているので、ESXi ホストに展開後すぐに動作可能です。このことにより、ハードウェアとソフトウェアの複雑な互換性問題が減り、展開時間が短縮されて、Sourcefire 3D System の機能を最大限に活用できます。以下に示すように、テストまたはパイロットとして、ESXi ホストに仮想サーバ、仮想防御センター、および仮想デバイスを展開し、仮想防御センターから展開環境を管理できます。

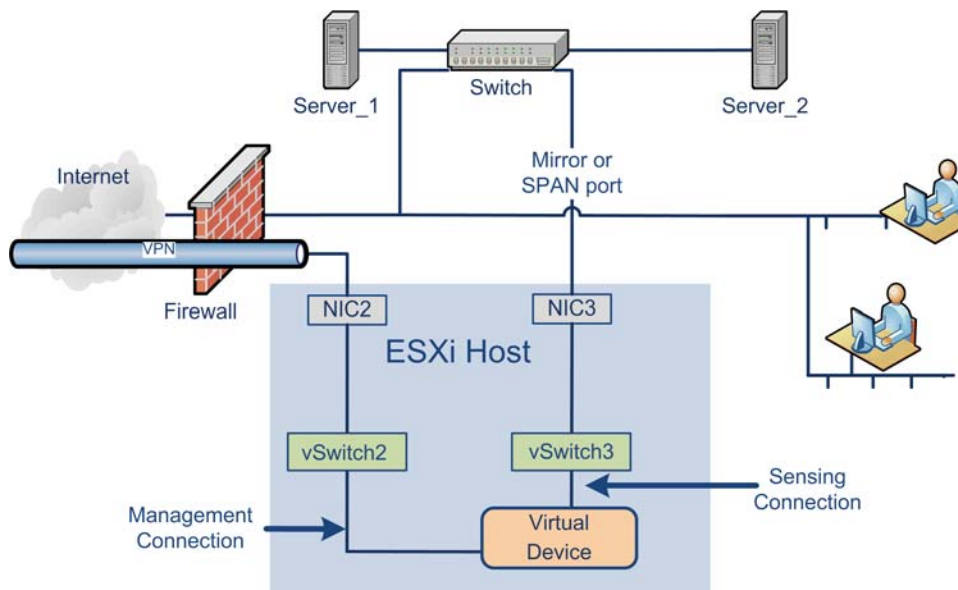


仮想デバイスの検知接続は、ネットワークトラフィックを監視できるようにする必要があります。仮想スイッチまたは仮想インターフェイスが接続するスイッチ上のポートグループは、無差別モードのトラフィックを受け入れる必要があります。これにより、仮想デバイスは他のマシンまたはネットワークデバイス向けの packets を読み取ることができます。例では、P ポートグループが無差別モードトラフィックを受け入れるように設定されています。「[仮想デバイスのセンシングインターフェイスの設定](#)」(P.69)を参照してください。

仮想アプライアンスの管理接続のほうがより一般的な差別モード接続です。仮想防御センターは、仮想デバイス用のコマンドと制御を提供します。ESXi ホストのネットワークインタフェースカード（この例ではNIC2）を経由した接続により、仮想防御センターにアクセスできます。仮想防御センターおよび仮想デバイスの管理接続のセットアップについては「[スクリプトを使用した仮想防御センターネットワークの設定](#)」(P.81)と「[CLIを使用した仮想デバイスの設定](#)」(P.75)を参照してください。

## リモート オフィス展開の使用

仮想デバイスは、リソースが限られているリモート オフィスを監視するための理想的な方法です。次に示すように、ESXi ホストに仮想デバイスを展開し、ローカルトラフィックを監視できます。



仮想デバイスの検知接続は、ネットワークトラフィックを監視できるようにする必要があります。これを行うには、仮想スイッチまたはセンシングインターフェイスが接続するスイッチのポートグループが、無差別モードトラフィックを受け入れる必要があります。これにより、仮想デバイスは他のマシンまたはネットワークデバイス向けのパケットを読み取ることができます。この例では、vSwitch3 のすべてが無差別モードトラフィックを受け入れるように設定されています。vSwitch3 は、NIC3 を経由して SPAN ポートにも接続されているため、リモートオフィスのスイッチを通過するトラフィックも監視できます。「[仮想デバイスのセンシングインターフェイスの設定](#)」(P.69) を参照してください。

仮想デバイスは防御センターで管理する必要があります。ESXi ホストのネットワークインターフェイスカード（この例では NIC2）を経由した接続により、リモート防御センターを使用して、仮想デバイスにアクセスできます。

さまざまな地理的位置にデバイスを展開する場合、保護されていないネットワークからデバイスを隔離して、デバイスおよびデータストリームのセキュリティを保証するための対策を実施する必要があります。デバイスから VPN または別のセキュアなトンネリングプロトコルを使用してデータストリームを送信することによりこれを実現できます。仮想デバイスの管理接続のセットアップの詳細については、「[CLI を使用した仮想デバイスの設定](#)」(P.75) を参照してください。